

議 事 録 (要旨)

会議名

第 1 回佐久市臼田地区生涯活躍のまち事業化検討委員会

日 時	平成 27 年 11 月 5 日 (木)	開催場所	佐久市役所 議会棟 第 3 委員会室	時 間	13 : 00 ～ 14 : 40
出席者	<p>委 員：市川伊知郎、井出民生、伊藤洋平、北澤彰浩、小林清 佐藤昭彦、篠原寿人、関敦、柳澤悦雄、山田厚子 細谷委員代理、堀内委員代理</p> <p>オブサーバー：市長 柳田清二、長野県企画振興部地域振興課 課長補佐兼活力創出係長 柳澤祐史</p> <p>事務局：地域局長 依田猛、地域整備室長 遠藤修 地域整備係長 市村志郎、地域整備係 森泉沙織</p>				<p>委員 出 10 人 欠 2 人 <small>(2 名代理出席)</small></p>
提出資料	<ul style="list-style-type: none"> ・資料 1 委員名簿 ・資料 2 委員会概要・設置要領 ・資料 3 佐久市生涯活躍のまち構想 (冊子版) ・資料 4 佐久市生涯活躍のまち構想 (パワーポイント版) ・資料 5 那須 100 年コミュニティ (伊藤委員提出資料) ・資料 6 コンパクトシティ臼田と C C R C 事業の構築 日本版生涯活躍のまちに求められる要件 				
<p>《 1 開会 》</p> <p>《 2 委嘱 》</p> <p>《 3 市長あいさつ 》</p> <p>《 4 自己紹介 》</p> <p>《 5 委員長の選出 》 委員会の概要について事務局より説明【資料 2】 互選により井出民生氏に決定</p> <p>《 6 会議事項 》</p> <p>(1) 佐久市生涯活躍のまち構想について 事務局より説明【資料 3・4】</p> <p>(2) 伊藤委員提出資料について 伊藤委員より説明【資料 5】</p> <p>(3) 意見交換 事務局より説明【資料 6】</p>					

委員 白田地区には病院があり安心感はあるが、地元に住んでいる皆さんがこの事業に携わる気持ちになっていかなければならない。「うすだ元気フォーラム」において地域の皆さんに農作物など様々なものを販売・出品してもらったが、「こんなものも地元で作っているんだね」「白田ではこんなこともやっているんだね」との声があった。白田地域では色々な事をされていたり作られている中で、これらがこの事業にどうはまってしまうのか、地域の人々がどう関わっていくのかが非常に大事になっていく。空き店舗や空き家など既存のものをまずは活用することから始め、それから新しい機能的なものを建てていく方が良い。少しずつ動き始めていくことが大切である。

委員 受け入れ側の気持ちを手前にもっていくことが大切である。空き家バンクとこの事業はどのような関わりを持つのか事務局に考えをお聞きしたい。

事務局 市の事業として空き家バンクに取り組んでおり、様々な情報発信をしながら進めている。「移住」という共通点はあるが、CCRCについてはタイプが若干異なり、「元気なお年寄り」をキーマンとして考えている。受け入れ側と移住者側がお互い納得して移住していただくことが大切なので、地元の受け入れ側との繋がりや調整が必要であると考えている。

委員 基本的なことは理解できたが、この事業は住まいの提供が一番重要である中で、「空き家」を重視するのか、ゆいま〜る那須のような「集中的な建物」でやっていくのか、はっきりさせる必要がある。

事務局 【資料3】「佐久市生涯活躍のまち構想」の8ページ目において、「白田地区では生きがい重視の農村型 自然豊かな地域の中におけるサ高住」を想定しているが、具体的な構想実現に向けて、白田地区の委員の皆さんを中心に検討していく中で、住宅の形態も含めてご検討いただきたい。国では、サ高住でも空き家でも良いと謳っている。構想の中では住居の整備は民間にお願いするとしている。民間との協力の中で、どんな策がいいのかということも合せてご検討いただければと思う。

委員 市の構想で、「医療健康福祉が充実した白田地区に人の流れを作る」とあり、医療健康福祉がメインということは分かるが、プラチナ世代と言われるある程度元気な方々の移住を想定した時に、そこまで医療福祉が身近に必要というのではなく、お守り代わりにあればいいかなというものである。わざわざ白田に来てもらうためには、地域に住んでいる人にとってもわくわくするものがないとなかなか魅力を感じてもらえないのではないかと。

ある程度の年齢層を想定していると思うが、もっと若い世代に来てくれることに越したことはない。農業が中心だとは思いますが、白田の特長をもっと生かすことが大切。そういった事はこれまでまちづくり団体さんも考えてきていると思うが、その中で「こういう時は空き家がいい」「集合住宅もあった方がいい」などの発想も膨らんでくるのではないかと。

移住者だけのコミュニティとなり、「後から来た人」「前からいる人」が分かれてしま

うのは良くない。地元と共通認識を持ち、互いに協力して何かをやったり作っていき
るものが必要ではないかと考えている。

佐久商工会議所が行っていた「イヤシロチ佐久」でも一番ネックな問題となっていた
のが「冬期間の過ごし方」である。冬になると都会へ帰ってしまい、長い別荘のよう
に使われてしまえば今とさほど変わらない。イヤシロチの方はそこが解決されないま
ま終わってしまった気がする。冬期間の問題も含めて検討する必要がある。

委員 ゆいま～る那須では、介護サービスがついているが、オプション的な位置付けである。
「まだ必要ないけれど将来あったら安心だ」ということで入居されている。一方で、
入居者と一緒にイベントなどを行うと、「どうやって認知症を予防しよう」「どうやっ
て健康でいよう」など入居者の健康意識の高さを感じている。外の立場から見ると健
康長寿は佐久市の魅力・特長であると感じている。都会の人からすれば、空気がおい
しい、水が綺麗、食べ物がおいしい、健康長寿になるためにそこに行ってみたくと思
うことが魅力のひとつではないかと思う。

委員 外から見てみると、地元にいる我々には気づかない良さがたくさんある。

委員 臼田の良さをブランド化することが必要。健康長寿の佐久と言われているが、食べ物
や自然を生かした運動メニューなどのソフト面を充実させ、臼田に行けば元気にピン
ピンになれるぞという仕掛けが大切である。そこから野沢のぴんころなどの繋がり
ができて佐久市内を巡回したくなるような流れを作ることができれば面白い。

委員 魅力を発信することは大事だが、佐久市は人口流出が多く、都会へ出て行って地元
に帰ってこないという中で、新たに都会から来てもらうのと合わせて、30～40年前
に佐久から出て行った方に帰ってきてもらうという働きかけもあれば良い。
年金生活者を対象とすることから、生活できるかどうか費用的な問題や、サ高住の賃料
などモデルケースとして示すことができれば、都会の方にとっても、これなら
移住できるといったイメージが湧きやすい。

事務局 国の示すCCRCでは、厚生年金21万程度の年金生活者をターゲットとしていると
謳っている。ただ、サ高住など作り方などによって賃料を下げ、それにより生活費も
抑えることができれば、もう少し低所得者にも入れるようなものができるだろうし、
グレードを上げて高所得者向けも考えられる。最終的には実施する事業者が、ここ
で議論された内容を基本として事業をしていただく予定であるので、臼田ではどうい
った形態が良いか今後ご議論いただく内容のひとつであると考えている。

委員 病院というと、病気になった人の治療や予防のための検診が多いと思うが、もっと違
う形での活用も考えられる。例えば多くの人が集まる病院祭の時のように運動をし
たり、元気な方々と病院職員が看護学校体育館と一緒に健康づくりを行うなど、病院の
メリットをもっと全面的に利用してもいいと思う。
都会にあるカルチャーセンターのような役割を、小さい臼田地域では、市で建設予定
のうすだ健康館や病院を利用するなど、まちや地域が担うこともいいと思う。

委員 病院のように今ある資源を活用することも大事である。

委員 この計画は他の市町村に先駆けている点が評価できる。正直ここまで行政の方で枠組みを作っているものはない。臼田は昔から佐久の中心と言われていたところで、色々な史跡もあり、まちとしても利用価値が高いと思っているのだが、本当に佐久に来るの？というところが疑問である。

マーケティングの結果をどうやって生かすかが難しい。最終的には民間が運営されるということであれば、事業性が伴わないとなかなかできないものである。やはり行政が税金面などの特例や支援をしっかりとやっていかないと、形にするのは非常に困難であると思う。ゆいま～る那須は「100年コミュニティ」と掲げているようだが、事業計画をたてて収益が伴って、5年10年ではなくいつまでも民間主体で維持しているかどうかは疑問であり、現段階ではイメージが湧かない。しかし取り組みに対する行政や市民の熱意は感じられる。

委員 ゆいま～る那須はひとつの集落が出来上がっているが、空き家バンクとなると転々としてまとまりがなく、地域とのコミュニティは図れるが、移住者同士のコミュニティが図りづらい部分もある。この事業を考えると、集合住宅による取り組みの方が良いと考える。集合住宅の選定場所は臼田地域の中なので、かなり限られてくると思うが、臼田の山間部は獣害被害がひどく、家庭菜園をするにも技術を要するため、山間部はどうかと思う。

事務局 今日の意見は議事録にまとめて次回の会議前にお配りしたい。
国も現在構想を練っているところで12月年内には最終報告の予定である。全国各地から国へCCRCに係る支援を求めたいとの声があがっている。CCRCに特化した支援、また地方創生に係る支援を検討されているとのことなので、情報が入り次第お示ししたい。

(4) その他

事務局より次回の委員会について説明

《 8 閉会 》